
Fate/Zero に最強の重力使いが召喚されました。

コーギー軍曹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Fate/Zero に最強の重力使いが召喚されました。

【Nコード】

N6784Y

【作者名】

コーギー軍曹

【あらすじ】

最強の重力使いがサーヴァントとして召喚されました。最近流行りのFate/Zero に便乗した作品です。まあ、暇つぶし程度に見て行ってください。

「汝三大の言霊を纏う七天、抑止の輪より来たれ……」

今ここに、異世界の凶戦士を召喚する……！！

「抑止の輪より来たれ、天秤の守り手よ！」

一人の英雄が、冬木市に現れた。

「問うぞ。貴様が私のマスターか？」

2メートルを超える身長。両肩と腕にプロテクターを付けており、青色のタイツで覆われているその体は、鍛えられた筋肉の形がくつきりと浮き出ている。

「な、馬鹿な」

本来バーサーカーのクラスで召喚された英霊は、力を増幅させる代償に理性を奪われている。だが、そこに居るサーヴァントは理性を持ち、会話も可能だった。

その男には野望があった。

「お前が聖杯に望む事とは、一体何だ？」

「私の望みか？ 私の望みは受肉だ。この体は不安定でおまけに生前より力が落ちている。だからその聖杯とやらには体を……最強の肉体を望むのだ。」

この世界にはあの小煩いドクター・バルカスも、忌々しいガイバー共も居ないようだからな。私がクロノスを創り、全世界を支配するのだ。フフ、フハハハハ！」

「（厄介な奴を召喚してしまったのかも知れん）」

「……殺せ、殺すんだバーサーカー！ あのアーチャ を殺せ！」
「復讐か？ まあいい、どの道全員殺すのだ。早いか遅いか、それだけだ」

「おはよう……いや、今はこんばんはかな、諸君。
早速で悪いが、死んでもらおう。」

この神たる私の手にかけて死ぬのだ、光栄に思うがいい」

青い男が4人の英霊が睨み合う戦場に現れる。

「……なあ征服王。アイツには誘いをかけんのか？」

「ああ言う手合いはなあ、大抵交渉には乗らんからな……。」

坊主、サーヴァントしちやどの程度のモンだ？ あれは」

「な、何だよあれ『バーサーカー』？ 何で理性があるんだよ！？ それにあのステータス……。」

「雑種、貴様の様な輩が神を名乗るだと？ 死して詫びるがいい！」

アーチャーの剣と槍がとんだ。

人間には誰も視認することの出来ない速度で飛んだ二つの宝具がバーサーカーに迫る。

青い男は自分に迫ってくる死の流星をよけようとはしない。

応じるようにその右手を前に出した次の瞬間には爆弾が爆発したかと思うような轟音が響いた。

アスファルトが粉碎され、着弾地点であったバーサーカーを隠す。

粉塵の晴れたそこには無傷のバーサーカーが立っていた。

「奴め、本当にバーサーカーか？」

ライダーが呟く。

「な、何が起こったんだよライダー」

「坊主には見えて無かったか。あの男、障壁の様なものを出して剣と槍を防ぎおった」

「はあ？」

「ほお？ 伊達に神は名乗っていないか、雑種」

「この威力、唯の剣と槍が獣化兵^{ソアノイド}を砕くほどの力を持つとは……。宝具とは厄介なものだ。

だがな、人間の分際でこのリヒャルト＝ギューオーに楯突こうと言う

のか？

ばかめ！！ 身の程を思い知らせてくれるわッ！」

男の姿が変わってゆく。

眩い光を発しながら、灰色の巨人へと姿を変える。

「見せてやろう。獣神将ソアロードの力と言う物を……」

まさに神のごとき圧倒的力をその男は持っていた。

「フハハハハ！ セイバーだのランサーだの言っても所詮は人間間。」

人類を支配すべく調整された獣神将ソアロードである、このリヒャルト＝ギユオアの敵ではないわ！」

「何だこの力は。本当に神だとも言うのか！」

そして大胆不敵でもあった。

「何故ライダーやアーチャーだけでなく貴様も此処に居る、リヒャ

ルト・ギューオー！」

「街中でばったり会ってな、余が誘ったのだ」

「ふん、酒の匂いに誘われただけの事だ。貴様等のようなカビの生えた死人だけに飲ませるのは勿体ないからな」

「何だ、酒が好きなのかバーサーカー？」

「フッフ、無論だ。」

……セイバー、キッチンへ案内しろ。酒の肴でも用意してやるう」

「料理なぞ作れるのかバーサーカー？」

「馬鹿にするな、その位私でもできる」

唯一の趣味は意外な物であった。

「ば、馬鹿な。美味いだと……」

「やるではないかバーサーカー」

「ほう」

「フハハハハ！ クロノス最高幹部が料理すら作れずしてどうすると言っただ」

狂人が余り好きではなかった。

「貴様が我が聖処女を惑わす神か！ 神の名を騙る異形の化け物め
ッ！」

「貴様の様な狂人はクロノスでも滅多にお目にかかれんな。まったく……鬱陶しい。害虫は今すぐ殺処分だ」

その男は、勝つためなら何でもした。

「よくぞここまで来た、雑種よ」

「貴様の面を見てみると、あのアルカンフェルを思い出す……。消える、虫けらが！」

「ばかなっ！ 我の宝具が!!！」

「見たか!? これが俺の宝具^カ。

瞬間質量7千エクサトンの擬似ブラックホールだ!!！」

街を人を、全てを漆黒の穴が呑みこもうとしている。どれ程の人間が死んだだろうか……。

「ギューオー！ これは、一体この惨劇は何だ！」

「セイバーか……。丁度いい。いささかブラックホールが育ち過ぎたようだな、俺だけでは中和できん。

死にたくなければ力を貸せ」

「きッ、貴様……」

「いいから宝具を使え！ やるぞッ！」

男は『この世^{アンリ・マユ}全ての悪』と対面する。

「これが貴様の絶望？ 憎悪？」

この程度でこのリヒャルトⅡギユオーが屈するとても思ったか？

いいから力を、体を寄せ！ 地球の覇者となる、この俺のために
な！！」

そうして世界に王が誕生した。
神のごとき力を持つ王が……。

(後書き)

【クラス】バーサーカー

【マスター】間桐雁夜

【真名】リヒャルト・ギューオー

【性別】男

【身長・体重】 212 (309) cm 451 kg

【属性】 混沌・悪

【筋力】 B (A) 【魔力】 B (A)

【耐久】 B (A) 【幸運】 D

【敏捷】 C (D) 【宝具】 A } EX

() は獣神変後の状態

【クラス別能力】

狂化：E

パラメーターを一部ランクアップさせるが、理性の大半を奪われる。

【保有スキル】

カリスマ：A

大軍団を指揮する天性の才能。

Aランクは人間として獲得しうる最高峰の人望といえるが、ソアロード獣神将
としては平均的な能力である。

バリアー：B

膨大なエネルギーの障壁を球状にして体を包む。威力Bの宝具まで
なら無効化が可能。対魔力としての能力も兼ねる。

ただし、使用する魔力量も多いため長時間の使用はできない。

単独行動：A++

ゾア・クリスタルから供給される膨大な魔力によって、マスターからの魔力供給が断たれても7日は現界できる。ただしその場合、戦闘形態を維持できるのは1日程度である。

獣神変：A

バトルスタイル
戦闘形態へと変身する能力。

一部を除いたパラメーターがアップする。

【宝具】

グラビティポイント
G・P：A

全身に装着されている重力制御球。

これを用いることで威力：A、瞬間質量7千エクサトンの『擬似ブラックホール』を使用できる。時間の経過とともに威力と範囲が上昇するが、時間が経ち過ぎると本人でも中和できない、本物のブラックホールになってしまう。しかも、『擬似ブラックホール』を使用した後は、グラビティポイントG・Pが失われてしまうため、回復するまで重力攻撃が使用不可能となる。

擬似ブラックホールを消すためには、同等以上の威力のある力をぶつける、もしくはギュー自身に中和させなければならない。もしギューを倒したとしても、グラビティポイントG・Pは独立して動いているため、消える事は無い。

ゾア・クリスタル：A

ゾアロード獣神将の命とも言えるエネルギー体。魔力供給の補助として使われる。

魔術師からの魔力供給だけで獣神変を行った場合、ものの十数秒で魔力が尽きる。

マスターである間桐雁夜は特に魔力供給量が低いいため、ゾア・クリ

スタル無しでは数秒で死に至るだろう。

これを破壊されれば獣神将は力^{ソアロード}を失うため、唯一の弱点でもある。

もしもアルカンフェルやガイバーとの戦闘でゾア・クリスタルが失われていたら……と言う妄想の元にできた作品です。

閣下って一番魅力的なキャラクターだと思っのに……自分じゃ全然魅力が出しきれないよ（泣）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6784y/>

Fate/Zero に最強の重力使いが召喚されました。

2011年11月20日18時27分発行